メディカル医療最前線

★医学ジャーナリスト 小野隆司

—〈76〉—

関節リウマチのLCAP療法①

特殊フィルターで白血球取り除く

松野リウマチ整形外科
松野博明院長

関節リウマチは昔から知られる病気だが、現行の診断基準が確立されたのは1987年と意外と新しい。それだけ分からないことが多かった病気といえる。

関節リウマチは、関節の内側に張られた膜である滑膜という部分に炎症が起き、痛みと腫れが生じる病気である。また皮下のしこりや血管の炎症、貧血などの症状が出ることもある。多くは一生を通じて付き合う病気となる。

現在、関節リウマチの患者数は日本全国で70万人といわれ、1年に1万5000人が新たに発病している。発症年齢は30～50代がピーク。20代から発病する。4対1の割合で女性に多いのも特徴になっている。

富山大学整形外科助教授、日赤医療センター・リウマチセンター外来主任などを務め、リウマチ研究で知られる松野博明・松野リウマチ整形外科院長は「関節が炎症を起こす一因は、活性化した白血球が炎症を起こす物質を放出するからです。やがては軟骨や骨の破壊まで進むことがあります」と説明する。

体に入ったウイルスや細菌など異物を攻撃するはずの白血球が、なぜか異物ではないはずの自分自身の関節を攻撃し、関節リウマチとなって表れてくる。なぜかが分からないため、完全に治すことは難しい。

ただし「治らないから治療法がないわけではありません。活性化された白血球の働きを抑えれば、痛みや腫れ、骨の変形を軽減できます。白血球の活動を抑制することが、リウマチ治療の大きな柱です」と松野院長。

そこで登場したのがLCAP療法（白血病除去療法）。活性化した血液中の白血球を取り除くことで、炎症を鎮める新しい治療法である。特殊フィルターで白血球を取り除く。腎臓の透析療法のリウマチ版といえるだろう。04年4月に保険適用になっているが、普及はこれからといったところである。

昨年9月から地元の富山市に専門クリニックを開いてリウマチ治療にあたっている松野院長は「最近10年間でリウマチ治療はかなり選択肢が広がりました。LCAPもその1つ。日本で開発されたもので、薬物療法以外のリウマチ治療法です。薬物療法ではないので薬剤や他の抗リウマチ治療との併用療法が可能です」と話す。

◆LCAP　白血球除去療法の略。エルキャップ療法と呼ばれる。長崎大学（江口勝美教授研究グループ）と旭化成メディカルが共同開発した。白血球除去フィルターには1000分の1ミリ単位の極細繊維で作られた不織布（織らない布）が使われている。